

# 私たちの歩んだ3年間

～置農シクラメンパワーアッププロジェクト～

園芸福祉科3年 梅津、江口、金子、鈴木、宮島、山口

## I. はじめに

これは3年前本校で栽培されたシクラメンの写真です。右は葉数も多く、バランスもいいですが、左は少なく、さびしいシクラメンです。シクラメンは播種から製品として完成するまで約1年を要します。小さな種が1か月かけて発芽、小さな葉っぱが少しずつ増え、大きくなっていきます。厳しい夏を乗り越えるのも、シクラメンにとってはかなりのストレスです。中には暑さに耐えきれず枯れてしまうものもあります。1年かけて、葉を増やし、花を咲かせます。栽培期間が長いこと、栽培技術が高いことなどから「良いもの」と「悪いもの」の差が大きい状況でした。私たちは1年次、農業と環境や総合実習で、鉢上げや葉組み、販売実習を通してシクラメンについて学びました。さらに2年生では課題研究で置農シクラメンパワーアッププロジェクトを立ち上げ、時代にあった、置農にあったシクラメン栽培を確立するため、プロジェクト活動に取り組んできました。



図1 3年前のシクラメン

## II. 目指したシクラメン

私たちの目指したシクラメンは、葉数が多いこと、葉のバランスがいいこと、花が沢山咲くこと、花の高さが揃い、更には環境の変化に強いシクラメンにすることを目標にしました。



図2 管理作業

このプロジェクトを進めるにあたり、8つの問題点を上げました。

1. 余剰苗で購入していることから苗が老化しており、初期成育が悪い
2. 鉢上げ用土が乾きにくく生育が悪い
3. 肥培管理方法が確立されていない
4. 萎凋病の発生が続いている。
5. 葉の発生が悪く、大きな葉が多い
6. ポット上げの回数が2回、使用するポットの大きさなど30年前のやりかたである
7. 栽培管理の記録がなく、担当の先生のさじ加減である
8. かん水方法の検討



図3 目指したシクラメン

などなど問題は山積みです。

問題が山積みのなか、南陽市の須貝園芸須貝秀作さん、福島県の農業生産法人磐植さんをはじめ、農業技術普及課、MPSジャパン、県内の農業関連高校の先生方に相談しアドバイスを頂きました。

### Ⅲ. 昨年の取り組み

1. ポット上げの省力化
2. 新たなかん水方法の導入
3. 外部認証への挑戦
4. IOT技術の導入に取り組みました。

### Ⅳ. 到達目標

1. 3年間の集大成として問題をすこしでも解決の方向すること。
2. 記録として残し、後輩たちへ引き継ぐこと
3. 目標とするシクラメンを栽培すること の3点としました。

### Ⅴ. 試験内容

#### (1) 播種、自家育苗に挑戦

11月下旬、シクラメンが売れ、温室に空きスペースができるころに播種します。

酢10%を加えた水に30分以上浸漬し、その後流水で1分流します。葉腐れ細菌病を防ぐことができます。

育苗箱に元気くん特号を入れ、溝を10本切ります。

1列に10粒 合計100粒の種を播種します。暗発芽種子であるため覆土は厚めにし、発芽まで遮光トンネル内に置き発芽まで約1か月待ちます。1か月後発芽よりほんの少し遅いくらいで遮光シートを撤去します。このタイミングがずれるとシクラメンはもやしになります。

#### (2) 鉢上げ

これまでは3月下旬に2.5号、6月に3.5号、8月に5号と3回行っていました。これを3月上旬に3号から7月5号へ上げることで1回分を省力化できます。また、3号ポットで仕上げることで2.5号に比べよりいい苗を作ることが出来ます。苗半作と言うように苗づくりがその後の生育に大きく影響します。

#### (3) 底面かん水

作業の省力化を図るため、底面吸水シートラブマットUを使用しました。ポットは土の量が少なく、吸水時間も少ないですが、仕上げ鉢にあげると土の量が増えるため、かん水の効果が見られませんでした。ポット時はラブマットを使用し省力化を図ることが出来ました。



図4 ご指導頂いた皆さん

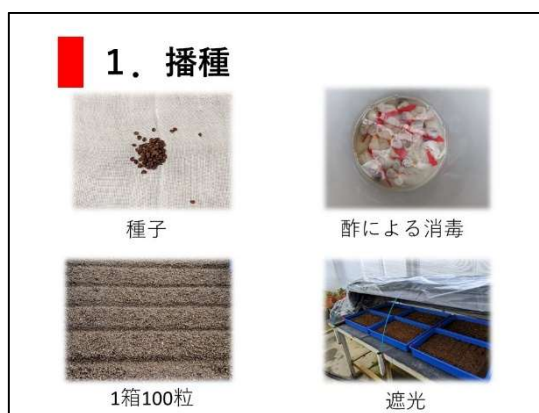


図5 播種

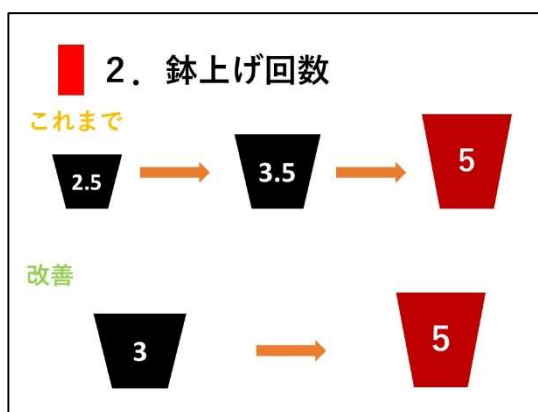


図6 鉢上げ

(4) 用土ピートモスを主体に、腐葉土、赤玉土、パーライト、くん炭、パーミキュライトなど水はけのいい用土としました。シクラメンは水を欲します。また、夏期は株の温度が高くなるので水をかけることで温度上昇を防ぎます。毎日水をかけるためにも乾きやすい用土にする必要があります。土づくりはまだまだ改善の余地があるため、さらに研究を深めます。

#### (5) 葉組み

葉組みリングを購入しました。9月頃から4回程度葉組みをし、葉の発生、花芽の成長を促進します。リングをはめることで葉組みの効果が上がりました。葉の倒れやすい方向に葉を組み、大きい葉を下に、小さい葉を上にも組み合わせることで上手に組み合わせることが出来ます。

#### (6) かん水

乾きやすい用土にしたことでかん水は夏期毎日、そのほかの時期は天気に合わせて中1日、2日としました。鉢底が常に乾いているくらいの少量多かん水としました。

#### (7) 追肥

かん水と交互または、2回に1回とし、3種類の肥料を使用しました。  
 育苗期は 20-10-20、15-16-17  
 生育前半は 20-10-20  
 後半は 20-10-20、10-30-20 を施用しました。  
 いずれもハイポネクス社のピーターズです。  
 また、盆明けから1月半に1回マグァンプⅡ販売直前にプロミックを使用しました。

#### (8) 反射シート

9月上旬鉢下に反射シートを敷きます。そうすることで葉が内側に巻きスカートができます。スカートが巻いたシクラメンがいいシクラメンと言われており、品種によって差がありますが、いいスカートが巻きました。

### VI. まとめ

様々な改善を重ね少しずつ目指したシクラメンになってきました。これも私たちだけでなく、沢山の皆様のご協力があったからです。自分たちの目指すものに仕上がった喜び、思い通りにならない悔しさこれが農業の魅力だと思います。

### 3. 底面吸水「ラブマットU」



図7 底面かん水

### 4. 用土



図8 用土

### 5. 葉組み



図9 葉組み

### 8. 反射シート



図10 反射シート

私たちは卒業後、農業とは関係のない別の道に進みます。農業学習を通して学んだ力を次のステージで発揮したいと思います。  
3年間ありがとうございました。

生徒感想  
梅津

今年は、新型コロナウイルスの影響で制限があった中福島の磐植さんに伺うことができました。置農のシクラメンの評価をいただき今後の栽培についての貴重な時間を過ごすことができました。そのおかげで、今年のシクラメンは本当に素晴らしいものになりました。学校の先生方や地域の皆様に「立派なシクラメンだね」という言葉をいただき良かったです。



図 1 1 今年のシクラメン

江口

私は2年間の課題研究を通してシクラメン栽培や管理の仕方を学びました。2年生の時は全く知らないことだらけだったけれど、先生や福島に行き行って磐植さんに色々教えて頂いて楽しくシクラメンのことについて知れました。グループのメンバーにも色々教えてもらって仲間の大切さも知れました。

金子

今年度の課題研究では福島県の磐植さんに夏と販売開始前に見学に行きました。コロナ禍の中ではありましたが、快く見学の許可をしていただきました。貴重な経験をすることができて良かったです。昨年から行ってきたシクラメン栽培について虎の巻としてまとめ、今後に残すことができて良かったです。たくさんの立派なシクラメンを育てることができて良かったです。この二年間で学んだことをこれからの生活で生かしていきたいです。

鈴木

今年は新型コロナウイルスによりシクラメンの携わる期間が短かったのですが、一人一人が良いシクラメンにするために丁寧な作業をしました。そしてコロナウイルスで大変だったのですが磐植さんにお邪魔させていただきました。詳しいところまでおしえていただきました。課題研究発表会では“三年間のまとめ”を題にして取り組みました。三年間の課題研究はとても楽しかったです。

宮島

今年の課題研究は、まとめの時期に入りいろんな人へ感謝の気持ちをかみしめながら授業を受けました。支えてくださる地域の方々やアドバイスをくださった磐植さんに感謝しています。特にコロナの休校中にシクラメンの世話をしてくださり、常に課題研究で何を学ぶかなど私たちを導いてくれた裕太先生には感謝してもきれません。

山口

今年度の課題研究は新型コロナウイルスの影響により自分たちの思い通りには活動出来ませんでした。そんな中、福島県の磐植さんをはじめたくさんの皆様にご協力していただきました。ありがとうございました。また、私たちの集大成でもある校内プロジェクト発表では「私たちの歩んだ三年間」と題して発表をしました。結果は優良賞でしたが悔いの残らない発表ができて良かったです。